

平成29年度後期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業 内 容 教 え 方 等		5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6	あなたは授業内容を理解できましたか
		7	教員の説明は明快でしたか
		8	教員の話は良く聞き取れましたか
		9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 か ら の 質 問	環 境 ・ 設 備 等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

今回の授業改善報告書は、一般教養科目142コマ(前年度後期113コマ)を対象に、7899名(同7949名)が回答した結果を総括する。いずれの設問においても、肯定的評価(A+B)の割合が90%を超えただけでなく、前年度後期の結果との比較においても全ての設問について肯定的評価が「増」もしくは「微増」し、全体として良好な状況と評価できる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	9.0 (10)	17.1 (19)	34.2 (38)	27.0 (30)	9.9 (11)	0.0 (0)	0.9 (1)	<p>[学生] 前年と比較するとNo.1「シラバスの確認」(92.1%→92.2%)とNo.2「教室での積極的取組み」(94.2%→94.7%)の肯定的評価が微増し、No.3授業外学習(90.6%→92.2%)とNo.4シラバス提示の目標達成(92.3%→93.7%)は増加した。シラバスを確認したとする割合よりもシラバス提示の目標を達成したとする割合が多いのは若干不可解であるが、誤差の範囲と考えるべきか。一般教養科目についても専門科目と同様に授業外学習が必須であるとの学生の意識をより一層定着させるために、予習を前提とする授業運営、復習を必要とする期末テストやレポート課題の実施を促してゆきたい。</p>	
	0.9 (1)	3.6 (4)	15.3 (17)	46.8 (52)	25.2 (28)	8.1 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	1.8 (2)	3.6 (4)	14.4 (16)	20.7 (23)	27.9 (31)	15.3 (17)	5.4 (6)	8.1 (9)	2.7 (3)		
	3.6 (4)	7.2 (8)	7.2 (8)	20.7 (23)	35.1 (39)	21.6 (24)	3.6 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (4)	8.1 (9)	17.1 (19)	22.5 (25)	23.4 (26)	20.7 (23)	3.6 (4)	0.9 (1)		
	2.7 (3)	8.1 (9)	22.5 (25)	29.7 (33)	30.6 (34)	5.4 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	3.6 (4)	9.9 (11)	17.1 (19)	27.0 (30)	21.6 (24)	13.5 (15)	6.3 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	2.7 (3)	6.3 (7)	15.3 (17)	33.3 (37)	31.5 (35)	9.9 (11)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (5)	10.8 (12)	20.7 (23)	29.7 (33)	22.5 (25)	8.1 (9)	3.6 (4)		<p>[授業[内容]] No.5「シラバス記載内容の遂行」(97%→97%)の肯定的評価は高いままで前年から変化なし、No.6「授業内容の理解」(92.5%→94.1%)は増加し、良好である。シラバスについては、確認していない内容について、その通りに遂行されたかどうかを評価することはできないはずであるから、ここでもNo.1との整合性はやや疑問である。また、学生の理解度は授業内容レベルを下げることでも上げられるため、結果だけに注目してはならない。学生にとって多少負荷のかかる質の高い内容をしっかりと理解させるための試行錯誤も重視したい。今後のカリキュラム見直しにおいて、基礎科</p>
	3.6 (4)	9.9 (11)	25.2 (28)	30.6 (34)	21.6 (24)	7.2 (8)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.8 (2)	4.5 (5)	8.1 (9)	19.8 (22)	21.6 (24)	18.0 (20)	14.4 (16)	7.2 (8)	4.5 (5)		
	3.6 (4)	8.1 (9)	16.2 (18)	28.8 (32)	26.1 (29)	14.4 (16)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	0.9 (1)	3.6 (4)	9.0 (10)	9.9 (11)	15.3 (17)	26.1 (29)	14.4 (16)	11.7 (13)	9.0 (10)		
	8.1 (9)	13.5 (15)	21.6 (24)	28.8 (32)	20.7 (23)	6.3 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.9 (1)	2.7 (3)	6.3 (7)	9.0 (10)	17.1 (19)	20.7 (23)	18.0 (20)	15.3 (17)	9.9 (11)		
	9.0 (10)	18.0 (20)	19.8 (22)	33.3 (37)	13.5 (15)	5.4 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.9 (1)	4.5 (5)	8.1 (9)	11.7 (13)	18.0 (20)	24.3 (27)	16.2 (18)	9.0 (10)	7.2 (8)		
	7.2 (8)	11.7 (13)	24.3 (27)	25.2 (28)	22.5 (25)	7.2 (8)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	5.4 (6)	9.0 (10)	23.4 (26)	28.8 (32)	17.1 (19)	12.6 (14)	2.7 (3)	<p>[環境・設備等] No.10「教室の学習環境」(92.2%→92.8%)とNo.11「参考図書図書館所蔵状況」(89.6%→90.8%)も肯定的評価が向上し、特にNo.11は長らく80%台にあったものが今回ようやく90%を超えた。カリキュラム改革によるクラスの大規模化・教室環境の悪化が生じないように、科目の配置等に注意したい。また、図書館の関連図書については一層の充実を図りたい。</p>	
	4.5 (5)	15.3 (17)	33.3 (37)	32.4 (36)	10.8 (12)	3.6 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.7 (3)	12.6 (14)	20.7 (23)	31.5 (35)	24.3 (27)	7.2 (8)	0.0 (0)	0.9 (1)		
	0.9 (1)	5.4 (6)	13.5 (15)	40.5 (45)	29.7 (33)	9.0 (10)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教養科目の経年変化は全体として改善・向上の傾向が見てとれ、望ましい状況である。今後のカリキュラム改革がこれを一層作促進する方向に作用するよう、分野別の精査が必要かと思われる。

4.今後の方針

カリキュラム改革を通じて、科目の整理・分類を行い、よりバランスのとれた魅力的な科目展開を行いたい。教養教育＝大規模講義ではなく、座学とアクティブラーニングの開講バランスにも配慮したい。

1.概評

平成27年度以降大きな変化はなく、いずれの設問に対しても肯定的評価が80%台後半から90%台というのは、良好な授業が行われているものと推測する（他学科の外国語の専門科目ではどのような結果なのか比較できない点が多少気になる）。外国語科目は英独仏西伊露中韓日【日本語は留学生科目】と多岐にわたり英語以外は初修の外国語であるので、同列に論じることは難しい部分もあるが、学生が英語ならびに英語以外の外国語に興味を持って臨んでいることはうかがえる。

平成31年度以降外国語の必要履修単位が減る学科もあるので、学生の学力低下が懸念される。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	2.9 (6)	4.9 (10)	16.1 (33)	18.0 (37)	22.9 (47)	17.1 (35)	10.2 (21)	3.9 (8)	3.9 (8)	<p>[学生] 問2の「積極的に取り組んだか」に対する100%肯定が多いのは、学生が自分を甘やかしているのだからよいと少々危惧する。これと同時に、「到達目標に達したか」という問の肯定的な答えが低いのは、語学というものがそう簡単には習得できないものであることを示しているのではなかろうか。語学力を身につけるのは持続力と予復習が大切であることを各教員が声を大にして伝えたいものである。</p>	
	3.9 (8)	6.8 (14)	17.1 (35)	28.8 (59)	17.1 (35)	19.5 (40)	6.3 (13)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (5)	6.3 (13)	13.2 (27)	22.0 (45)	24.9 (51)	15.6 (32)	10.7 (22)	4.9 (10)		
	4.9 (10)	12.7 (26)	17.6 (36)	25.4 (52)	20.0 (41)	16.1 (33)	2.9 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.5 (1)	2.9 (6)	5.4 (11)	12.2 (25)	20.5 (42)	25.9 (53)	15.1 (31)	12.7 (26)	4.9 (10)		
	6.8 (14)	13.2 (27)	20.5 (42)	26.3 (54)	18.5 (38)	11.2 (23)	2.4 (5)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	1.5 (3)	4.4 (9)	11.7 (24)	23.4 (48)	17.1 (35)	17.1 (35)	15.1 (31)	5.9 (12)	2.0 (4)	2.0 (4)		
	2.4 (5)	2.9 (6)	8.3 (17)	17.1 (35)	21.0 (43)	29.8 (61)	14.1 (29)	3.9 (8)	0.5 (1)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.5 (1)	2.4 (5)	4.4 (9)	11.2 (23)	18.5 (38)	21.5 (44)	20.0 (41)	14.1 (29)	7.3 (15)		<p>[授業[内容]] 英語非英語ともに内容別クラスで多少否定的な評価が多い傾向がみられるが、これは内容が難しくなるにつれてどうしても生じることである。同じことが前期の英語I・非英語の入門クラスと、後期の英語II・非英語の初級クラスとを比較した場合にも起きてくる。小テストを課したり、授業時以外に学習させる手段を講じて授業内容を学生に浸透させる工夫が教員にも求められると思われる。</p>
	6.3 (13)	13.2 (27)	24.9 (51)	24.9 (51)	14.1 (29)	12.2 (25)	3.4 (7)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.5 (1)	0.5 (1)	4.9 (10)	7.8 (16)	11.2 (23)	23.4 (48)	21.0 (43)	15.6 (32)	10.2 (21)	4.9 (10)		
	5.4 (11)	10.2 (21)	23.4 (48)	28.3 (58)	13.7 (28)	13.7 (28)	4.9 (10)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)		
7	1.5 (3)	1.0 (2)	3.9 (8)	2.0 (4)	8.3 (17)	13.7 (28)	15.6 (32)	15.6 (32)	21.5 (44)	17.1 (35)		
	18.0 (37)	21.5 (44)	22.9 (47)	16.6 (34)	12.7 (26)	6.3 (13)	1.0 (2)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.5 (1)	1.0 (2)	2.4 (5)	2.9 (6)	5.9 (12)	15.1 (31)	13.7 (28)	17.6 (36)	19.0 (39)	22.0 (45)		
	19.5 (40)	24.9 (51)	23.9 (49)	14.6 (30)	11.2 (23)	3.4 (7)	2.0 (4)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	1.5 (3)	1.0 (2)	2.9 (6)	4.9 (10)	11.7 (24)	14.1 (29)	18.5 (38)	11.7 (24)	17.6 (36)	16.1 (33)		
	17.6 (36)	16.6 (34)	21.0 (43)	19.5 (40)	13.2 (27)	10.2 (21)	2.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.5 (1)	3.4 (7)	13.7 (28)	20.5 (42)	27.3 (56)	18.0 (37)	16.1 (33)	<p>[環境・設備等] クラス人数・教室についてはおおむね良好であると判断される。学生がどの程度の頻度で図書館を利用しているのか、また、資料の探し方をきちんと心得ているのかも気になるところである。</p>	
	16.6 (34)	22.4 (46)	28.8 (59)	20.5 (42)	6.8 (14)	4.9 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	1.5 (3)	1.5 (3)	7.3 (15)	5.9 (12)	19.0 (39)	26.3 (54)	23.4 (48)	10.2 (21)	2.4 (5)	2.4 (5)		
	3.4 (7)	4.4 (9)	17.6 (36)	31.7 (65)	20.0 (41)	17.1 (35)	4.4 (9)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.5 (1)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

英語II、非英語の初級クラスに関しては前期からの継続クラスなので、人数に大きなばらつきは見られない。非英語を履修する学生の大半も前期でやめてしまわず、後期まで継続して履修している。

総合教育センターの外国語科目群は「英語力のアップを図る」とことと「初習語学を学んで英語とは異なる地平があることを学生に伝え、ある程度の学力をつけさせる」という2つの多少目的の異なることに取り組んでいかねばならない。英語にしても非英語にしても入り口には大勢の学生が集まるが、2年目以降の内容別クラスになると人数がかなり減少する傾向がみられる。学生の学習意欲有無もさることながら、語学力を伸ばしたい学生に対しては極力門戸を開いておくことができるといいと思われる。このためには10人未満のクラスを閉講するなどという愚かなことは極力しないようにすべきではなかろうか。

4.今後の方針

平成31年度からは学部・学科によって履修必要単位数が再び変わるので、学生が履修しやすく、なおかつ効果的な学習効果があげられるように、かつて短大が存在したころに配置されていた週1回の非英語のクラスが開かれる。特に初修語学では週1回という時間数は十分な者とは言えないため、授業方法に工夫が必要であると思われる。

1.概評

11の質問項目での肯定的回答が、すべて9割を超えている（授業に関するものは96%以上）おり、全体としては良好な状況にあると言える。ただ授業によって若干のばらつきがあるため、個別の授業の課題を共有し、教職課程全体としての改善を行う。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	12.0 (3)	16.0 (4)	24.0 (6)	20.0 (5)	16.0 (4)	8.0 (2)	<p>[学生] シラバスの確認や授業外学習は概ね定着してきている。授業への積極的関わりについても、学生が参加できる場面の多い授業展開が実現していると思われる。他方で「到達目標の達成」については、「達成」したかどうか具体的に分かるような、目標設定と授業内容の構成、そして学生の自己評価の方法をより明確にしていく必要がある。</p> <p>[授業[内容]] 授業内容についても全体として問題はないが、やはり個々の授業についての学生の自由記述では、具体的な指摘がなされており、先ずは個々の教員が改善を図ると同時に、教職課程全体として対応をする。</p> <p>[授業[教え方等]] 教え方についても大きな問題はないと考えるが、話が聞き取りづらい、パワーポイント画面が見えにくいなどという指摘が出ている授業もあるため、より学生が学びやすい教え方、資料の提示の方法に留意を行うことを徹底する。</p> <p>[環境・設備等] 人数に対して教室が広すぎるなどといったコメントが見られた。難しい面が多いが、できるだけ人数に適した教室が使用できることが望ましい。図書館の資料については否定的回答が若干多かった。授業内容と学生のニーズに合う資料の整備を行う。</p>
	8.0 (2)	12.0 (3)	32.0 (8)	12.0 (3)	20.0 (5)	12.0 (3)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	8.0 (2)	12.0 (3)	24.0 (6)	16.0 (4)	16.0 (4)	20.0 (5)	
	16.0 (4)	20.0 (5)	16.0 (4)	28.0 (7)	8.0 (2)	8.0 (2)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	16.0 (4)	4.0 (1)	28.0 (7)	12.0 (3)	32.0 (8)	
	32.0 (8)	20.0 (5)	20.0 (5)	4.0 (1)	12.0 (3)	8.0 (2)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	8.0 (2)	28.0 (7)	12.0 (3)	28.0 (7)	4.0 (1)	12.0 (3)	
	8.0 (2)	8.0 (2)	24.0 (6)	24.0 (6)	8.0 (2)	24.0 (6)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	8.0 (2)	4.0 (1)	12.0 (3)	12.0 (3)	20.0 (5)	24.0 (6)	16.0 (4)	
	16.0 (4)	24.0 (6)	16.0 (4)	16.0 (4)	8.0 (2)	12.0 (3)	8.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	16.0 (4)	20.0 (5)	16.0 (4)	16.0 (4)	24.0 (6)	
	24.0 (6)	16.0 (4)	20.0 (5)	12.0 (3)	16.0 (4)	8.0 (2)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	8.0 (2)	20.0 (5)	12.0 (3)	16.0 (4)	36.0 (9)	
	36.0 (9)	20.0 (5)	8.0 (2)	20.0 (5)	12.0 (3)	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	0.0 (0)	4.0 (1)	20.0 (5)	8.0 (2)	24.0 (6)	36.0 (9)	
	40.0 (10)	20.0 (5)	12.0 (3)	12.0 (3)	12.0 (3)	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	4.0 (1)	4.0 (1)	4.0 (1)	16.0 (4)	12.0 (3)	24.0 (6)	28.0 (7)	
	24.0 (6)	28.0 (7)	12.0 (3)	8.0 (2)	16.0 (4)	8.0 (2)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	12.0 (3)	16.0 (4)	24.0 (6)	20.0 (5)	20.0 (5)	
	28.0 (7)	24.0 (6)	20.0 (5)	8.0 (2)	16.0 (4)	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.0 (3)	16.0 (4)	4.0 (1)	24.0 (6)	12.0 (3)	24.0 (6)	8.0 (2)	
	20.0 (5)	20.0 (5)	12.0 (3)	24.0 (6)	8.0 (2)	8.0 (2)	8.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職に関する科目は非常勤講師の担当が多く、日常的な連絡が難しい状況にはあるが、各々の担当者が専門性を発揮して充実した授業を行っている。

4.今後の方針

3で述べた状況を踏まえ、これまで以上に学生の様子や履修動機（教職への希望）について、常勤教員と非常勤講師で情報を共有し、より学生の実態に応じた授業が行えるようにする。また授業運営上のサポート（模擬授業などの資料の印刷の補助など）を充実させる。

1.概評

当科では、前学期に続いて、共通質問11項目のうち10項目において大学全体の肯定的評価平均を超えることができた。前学期に唯一下回ったno.2の項目については、今期は大学平均を上回ったが、no.3の項目が0.2ポイント下回り、その分否定的回答が0.2ポイント上回った。但し、前学期の数値と比べたときにはno.3の肯定的回答率は高まり、否定的回答率は下がっている。3にも記したが、「授業外学習」について、実質的な肯定評価を得られるよう、各授業での工夫と誘導が早急に必要である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	4.0 (4)	15.0 (15)	33.0 (33)	28.0 (28)	10.0 (10)	4.0 (4)	<p>[学生] no.3の項目以外は、全て全学および前学期を上回る肯定的評価で且つ否定的評価は下回った。但し、概評にも書いたとおり、no.3については肯定的評価が全学平均を下回っただけでなく、否定的評価も上回ってしまった。要因は、学習時間が少なかったという端的な要因ばかりでなく、授業に附随したワークについては「授業外学習」としてカウントされていない可能性もあり、複数考えられるだろう。が、いずれにせよ学生自身が「授業外に学習をした」という達成感を得られるよう、教員側からの働きかけが肝要である。 なお、no.2およびno.4の項目については、肯定的評価が100%である科目率が50%を超えている。とりわけno.4の「到達目標」の達成については、これまでA評価が50%を下回る結果が続いていたが、今期ようやくこれを超過し、学生にとって達成感の得られる科目が増えていることを裏付けているものと考え。</p>
	2.0 (2)	16.0 (16)	35.0 (35)	28.0 (28)	9.0 (9)	6.0 (6)	2.0 (2)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	11.0 (11)	16.0 (16)	31.0 (31)	24.0 (24)	9.0 (9)	3.0 (3)	
	3.0 (3)	11.0 (11)	25.0 (25)	32.0 (32)	16.0 (16)	10.0 (10)	3.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	6.0 (6)	20.0 (20)	20.0 (20)	28.0 (28)	13.0 (13)	7.0 (7)	
	7.0 (7)	14.0 (14)	33.0 (33)	24.0 (24)	9.0 (9)	9.0 (9)	3.0 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	2.0 (2)	8.0 (8)	8.0 (8)	16.0 (16)	32.0 (32)	17.0 (17)	14.0 (14)	3.0 (3)	0.0 (0)	
	1.0 (1)	3.0 (3)	13.0 (13)	28.0 (28)	22.0 (22)	19.0 (19)	8.0 (8)	4.0 (4)	2.0 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	5.0 (5)	19.0 (19)	22.0 (22)	27.0 (27)	17.0 (17)	8.0 (8)	
	8.0 (8)	15.0 (15)	28.0 (28)	25.0 (25)	18.0 (18)	5.0 (5)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.0 (1)	4.0 (4)	5.0 (5)	8.0 (8)	14.0 (14)	24.0 (24)	26.0 (26)	12.0 (12)	6.0 (6)	
	5.0 (5)	14.0 (14)	29.0 (29)	24.0 (24)	17.0 (17)	9.0 (9)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	8.0 (8)	4.0 (4)	5.0 (5)	11.0 (11)	26.0 (26)	27.0 (27)	17.0 (17)	
	17.0 (17)	31.0 (31)	24.0 (24)	11.0 (11)	10.0 (10)	6.0 (6)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.0 (6)	7.0 (7)	6.0 (6)	6.0 (6)	23.0 (23)	29.0 (29)	23.0 (23)	
	23.0 (23)	27.0 (27)	27.0 (27)	9.0 (9)	10.0 (10)	3.0 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.0 (2)	0.0 (0)	5.0 (5)	6.0 (6)	9.0 (9)	17.0 (17)	25.0 (25)	22.0 (22)	14.0 (14)	
	14.0 (14)	24.0 (24)	28.0 (28)	17.0 (17)	12.0 (12)	3.0 (3)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (4)	12.0 (12)	15.0 (15)	34.0 (34)	17.0 (17)	18.0 (18)	
	19.0 (19)	19.0 (19)	34.0 (34)	20.0 (20)	7.0 (7)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	3.0 (3)	7.0 (7)	18.0 (18)	34.0 (34)	19.0 (19)	11.0 (11)	6.0 (6)	
	8.0 (8)	10.0 (10)	29.0 (29)	34.0 (34)	13.0 (13)	6.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

全般に高い評価である中で、これまでは「学生の到達度」に対する評価が一番の問題であったが、今回新たに「授業外学習」に対する学生の意識という問題が浮上してきた。実態を把握するとともに、どのような方策が可能であるか、教員間で情報を共有しつつ探る必要がある。

4.今後の方針

肯定的回答率は高止まりしているが、数字はあくまで参考であり、結果を教員各自が吟味し、それぞれが報告内容を踏まえた上で、改善点や新たな工夫を捻出することが、毎回記すものの重要である。

そのためにも、学科で実施している授業公開を相互に利用し、批評しあうことは有意義な機会ではないかと思われる。そうした機会も含め、常勤教員は科会等でこれまでどおり密に報告を行い情報を共有する。非常勤の先生方とも情報交換を行う。

1.概評

後期開設科目のうち87科目でアンケートが実施された。肯定的な回答（A+B）を見ると、問11を除いていずれも全体平均値と同程度である。よって全体的状況から見て、引き続き授業改善の効果が明らかに数値に現れているとまではいえないもの、全体としてはおおむね順調に講義が実施されていると思われる。ただ、設備面での評価は、今期も全体より低い。引き続き、図書館へは文献設置の要望を積極的に行うとともに、学生には参考文献の検索や、研究方法に関する具体的な指導に力点を置きたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (5)	16.5 (13)	29.1 (23)	22.8 (18)	13.9 (11)	5.1 (4)	6.3 (5)	<p>[学生] シラバスを確認する項目で、前年度に引き続きポイントが平均を上回った。学生自身が履修登録方法を理解し、便覧およびシラバスの確認が重要であることの意識が高まったといえる。以前は平均値を下回っていた必修科目でも、改善の方向がはっきりとみられるのはよい傾向である。授業外の学習については、全体平均とあまり差はなく、その意味で徐々に改善している傾向が見られるが、引き続き能動的な姿勢を育み、学習意欲を高める工夫が必要であろう。</p>	
	3.8 (3)	10.1 (8)	16.5 (13)	26.6 (21)	27.8 (22)	12.7 (10)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	1.3 (1)	5.1 (4)	3.8 (3)	21.5 (17)	15.2 (12)	25.3 (20)	17.7 (14)	6.3 (5)	3.8 (3)		
	2.5 (2)	7.6 (6)	20.3 (16)	27.8 (22)	11.4 (9)	22.8 (18)	5.1 (4)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	10.1 (8)	26.6 (21)	25.3 (20)	22.8 (18)	3.8 (3)	6.3 (5)		
	3.8 (3)	8.9 (7)	25.3 (20)	32.9 (26)	16.5 (13)	12.7 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	1.3 (1)	10.1 (8)	13.9 (11)	27.8 (22)	22.8 (18)	11.4 (9)	8.9 (7)	3.8 (3)	0.0 (0)		
	1.3 (1)	1.3 (1)	11.4 (9)	15.2 (12)	26.6 (21)	30.4 (24)	11.4 (9)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	6.3 (5)	13.9 (11)	22.8 (18)	25.3 (20)	17.7 (14)	7.6 (6)	5.1 (4)		<p>[授業[内容]] シラバスに記載された授業運営が行われたか、授業内容が理解できたか、いずれについての数値もほぼ平均値であり、全体的に教員の授業の進め方に改善が引き続き行われているものと評価したい。評価が低い科目の担当者には、学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れる。</p>
	3.8 (3)	10.1 (8)	20.3 (16)	27.8 (22)	24.1 (19)	10.1 (8)	3.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	7.6 (6)	13.9 (11)	24.1 (19)	20.3 (16)	19.0 (15)	5.1 (4)	5.1 (4)		
	3.8 (3)	7.6 (6)	19.0 (15)	30.4 (24)	26.6 (21)	11.4 (9)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	12.7 (10)	8.9 (7)	11.4 (9)	22.8 (18)	11.4 (9)	22.8 (18)	7.6 (6)		
	7.6 (6)	19.0 (15)	25.3 (20)	20.3 (16)	15.2 (12)	11.4 (9)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	5.1 (4)	6.3 (5)	10.1 (8)	13.9 (11)	12.7 (10)	22.8 (18)	17.7 (14)	11.4 (9)		
	11.4 (9)	19.0 (15)	22.8 (18)	21.5 (17)	20.3 (16)	3.8 (3)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	1.3 (1)	2.5 (2)	10.1 (8)	11.4 (9)	15.2 (12)	22.8 (18)	12.7 (10)	16.5 (13)	7.6 (6)		
	8.9 (7)	13.9 (11)	16.5 (13)	27.8 (22)	25.3 (20)	6.3 (5)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	7.6 (6)	8.9 (7)	17.7 (14)	25.3 (20)	20.3 (16)	13.9 (11)	5.1 (4)		
	5.1 (4)	13.9 (11)	30.4 (24)	29.1 (23)	15.2 (12)	6.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	2.5 (2)	3.8 (3)	1.3 (1)	13.9 (11)	22.8 (18)	19.0 (15)	25.3 (20)	7.6 (6)	2.5 (2)	1.3 (1)		
	2.5 (2)	6.3 (5)	12.7 (10)	30.4 (24)	29.1 (23)	13.9 (11)	3.8 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

- ・参考書の充実については、各科目において論文検索や地域図書館の利用など、どのような文献を資料として用いるのか、文献の性格や検索の方法について指導を徹底したい。
- ・例年、各学年の学科必修科目や資格にかかわる必修科目では、シラバスの事前確認や積極的な取り組み、授業の理解に対する評価が低く出る傾向があるが、今回に関してはほぼ平均値と同じ数字が出ており、この点において大きく改善がみられる。授業担当者の努力だけでなく、必修科目についての学生の理解が深まっていると考えられる。

4.今後の方針

評価の低い項目については学科で情報を共有し、より学生の学習意欲を高め、学習に対する満足度を上げられるよう取り組みたい。

1.概評

今回の回答集計では、問8のみA+Bの回答比率で全体集計結果を下回っていたが、それ以外の設問のA+Bの回答比率、及びすべてのAの回答比率は全ての質問で全体集計結果を上回っていた。前期と比べて結果が良好となっており、改善の余地があるものの、おむね好ましい結果と考えている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (3)	7.4 (10)	13.2 (18)	15.4 (21)	16.2 (22)	29.4 (40)	16.2 (22)	<p>[学生] Aの回答を見ると、問1(シラバス確認)で全学平均の13.6%、問2(授業内の積極的取組)で11.4%、問3(授業外学習)で8.3%、問4(到達目標達成)で15%上回っており、学生がしっかりと学習をし、到達目標に達成していたと自己評価していることがわかる。C+Dの否定的評価も全学平均を下回っていることから、真剣に取り組んでいないと自己評価する学生が少ないこともわかる。</p>	
	19.1 (26)	27.9 (38)	19.1 (26)	20.6 (28)	6.6 (9)	5.9 (8)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	2.2 (3)	4.4 (6)	10.3 (14)	17.6 (24)	25.0 (34)	22.1 (30)	17.6 (24)		
	16.2 (22)	22.1 (30)	25.0 (34)	21.3 (29)	8.8 (12)	5.9 (8)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (3)	2.9 (4)	11.0 (15)	14.7 (20)	19.1 (26)	30.1 (41)	19.1 (26)		
	18.4 (25)	30.9 (42)	21.3 (29)	14.7 (20)	10.3 (14)	2.9 (4)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.7 (1)	0.7 (1)	0.7 (1)	4.4 (6)	9.6 (13)	13.2 (18)	25.7 (35)	13.2 (18)	22.1 (30)	9.6 (13)		
	9.6 (13)	21.3 (29)	17.6 (24)	25.0 (34)	11.8 (16)	12.5 (17)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.7 (1)	0.7 (1)	1.5 (2)	1.5 (2)	7.4 (10)	15.4 (21)	16.9 (23)	30.9 (42)	25.0 (34)		<p>[授業[内容]] 問5(シラバス通りの授業)、問6(学生の内容理解)については、A評価、A+B評価両方が全学平均を上回っている。一部教員の授業で問6への否定的評価(C+D)が突出して高くなっているため、授業概要を踏まえて内容の難易度の調整等も含め、当該教員と話し合う予定である。</p>
	22.1 (30)	32.4 (44)	22.1 (30)	14.0 (19)	6.6 (9)	1.5 (2)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.5 (2)	1.5 (2)	3.7 (5)	5.1 (7)	9.6 (13)	12.5 (17)	14.0 (19)	29.4 (40)	22.8 (31)		
	22.8 (31)	27.9 (38)	21.3 (29)	14.0 (19)	8.8 (12)	2.9 (4)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	1.5 (2)	0.7 (1)	3.7 (5)	0.7 (1)	2.9 (4)	8.1 (11)	10.3 (14)	9.6 (13)	24.3 (33)	38.2 (52)		
	37.5 (51)	24.3 (33)	14.0 (19)	16.2 (22)	3.7 (5)	2.2 (3)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	1.5 (2)	0.7 (1)	2.2 (3)	2.9 (4)	0.0 (0)	8.8 (12)	8.8 (12)	10.3 (14)	25.0 (34)	39.7 (54)		
	40.4 (55)	25.0 (34)	16.2 (22)	11.8 (16)	2.9 (4)	2.2 (3)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.7 (1)	1.5 (2)	2.2 (3)	2.2 (3)	4.4 (6)	8.1 (11)	12.5 (17)	8.1 (11)	24.3 (33)	36.0 (49)		
	36.0 (49)	25.0 (34)	11.8 (16)	14.7 (20)	9.6 (13)	2.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	1.5 (2)	2.9 (4)	9.6 (13)	7.4 (10)	19.9 (27)	28.7 (39)	29.4 (40)		
	33.1 (45)	27.9 (38)	19.1 (26)	13.2 (18)	3.7 (5)	2.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	1.5 (2)	3.7 (5)	16.9 (23)	13.2 (18)	22.8 (31)	25.0 (34)	16.2 (22)		
	19.1 (26)	27.9 (38)	24.3 (33)	11.8 (16)	11.0 (15)	5.1 (7)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

今学期の評価の特徴として、「教え方等」の評価がそれほど高くなかったことがあげられる。結果を精査すると、特定教員への否定的評価が突出して高いことがうかがえる。授業が外国語で行われる場合、教え方等の評価は低くなる可能性もあり、C評価やD評価が悪いことは授業の質が悪いことと等価ではない。しかしながら、「教え方等」でD評価の結果が全学平均よりも悪かったことは真摯に受け止める必要がある。

4.今後の方針

授業の質を高めるために、年度末に非常勤教師連絡会を開催し、学科の英語スキル授業EAP (English for Academic Purpose: 学問のための英語) を強調したものになることを伝え、どのような教材を用いてどのように教えるかについて情報共有を図るFD活動を行った。今年度は学内プロジェクト予算を頂けるため、外部講師を招いてFD活動をするなど、教員の指導力を高めて教育の質を高めていきたい。また、「教え方等」で評価の悪い教員に対しては授業見学を行い、抱えている問題点を共有して授業運営を改善していきたい。

1.概評

概ね学生の自己評価がアップしており、学びに対する意識の上昇が感じられる。学生の姿勢と教員の姿勢は連動していると思われる。お互いに刺激しあってさらに良い成果を生み出すことを期待したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	1.0 (1)	2.0 (2)	4.1 (4)	15.3 (15)	11.2 (11)	19.4 (19)	21.4 (21)	12.2 (12)	10.2 (10)	3.1 (3)	<p>[学生] 例年に比べ授業に臨む姿勢や積極性に関する設問において僅かではあるが肯定率が上昇しているのが好ましい。語学の授業を中心に学生の熱意が年々アップしており、教員のほうも刺激を受けている。</p>	
	6.1 (6)	12.2 (12)	16.3 (16)	25.5 (25)	13.3 (13)	12.2 (12)	11.2 (11)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	1.0 (1)	4.1 (4)	6.1 (6)	13.3 (13)	23.5 (23)	12.2 (12)	14.3 (14)	19.4 (19)	6.1 (6)		
	6.1 (6)	21.4 (21)	13.3 (13)	15.3 (15)	17.3 (17)	18.4 (18)	4.1 (4)	3.1 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)		
3	1.0 (1)	0.0 (0)	3.1 (3)	7.1 (7)	10.2 (10)	17.3 (17)	20.4 (20)	13.3 (13)	21.4 (21)	6.1 (6)		
	7.1 (7)	19.4 (19)	18.4 (18)	16.3 (16)	21.4 (21)	11.2 (11)	3.1 (3)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	1.0 (1)	4.1 (4)	5.1 (5)	16.3 (16)	18.4 (18)	16.3 (16)	21.4 (21)	8.2 (8)	8.2 (8)	1.0 (1)		
	2.0 (2)	7.1 (7)	13.3 (13)	20.4 (20)	18.4 (18)	20.4 (20)	13.3 (13)	3.1 (3)	2.0 (2)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	4.1 (4)	4.1 (4)	11.2 (11)	15.3 (15)	16.3 (16)	24.5 (24)	16.3 (16)	8.2 (8)		<p>[授業[内容]] 授業内容についての学生の評価も肯定的であり、学生の姿勢と連動しているという感じを受ける。シラバスの作成や授業準備など教員の授業に向かう積極的な姿勢が感じられる</p>
	9.2 (9)	18.4 (18)	22.4 (22)	18.4 (18)	15.3 (15)	11.2 (11)	4.1 (4)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	5.1 (5)	10.2 (10)	8.2 (8)	19.4 (19)	15.3 (15)	17.3 (17)	18.4 (18)	6.1 (6)		
	8.2 (8)	18.4 (18)	16.3 (16)	20.4 (20)	19.4 (19)	8.2 (8)	7.1 (7)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	0.0 (0)	5.1 (5)	3.1 (3)	10.2 (10)	15.3 (15)	12.2 (12)	20.4 (20)	16.3 (16)	17.3 (17)	<p>[授業[教え方等]] 教員の説明や話方に対する評価も上昇しており教員の熱意も感じられる。</p>	
	17.3 (17)	15.3 (15)	21.4 (21)	17.3 (17)	15.3 (15)	11.2 (11)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (3)	5.1 (5)	8.2 (8)	13.3 (13)	14.3 (14)	18.4 (18)	19.4 (19)	18.4 (18)		
	17.3 (17)	20.4 (20)	19.4 (19)	16.3 (16)	16.3 (16)	5.1 (5)	5.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (3)	8.2 (8)	9.2 (9)	14.3 (14)	17.3 (17)	15.3 (15)	20.4 (20)	12.2 (12)		
	13.3 (13)	18.4 (18)	23.5 (23)	15.3 (15)	17.3 (17)	7.1 (7)	5.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	5.1 (5)	7.1 (7)	14.3 (14)	16.3 (16)	20.4 (20)	19.4 (19)	16.3 (16)		
	16.3 (16)	24.5 (24)	20.4 (20)	20.4 (20)	7.1 (7)	9.2 (9)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (6)	5.1 (5)	10.2 (10)	27.6 (27)	20.4 (20)	15.3 (15)	10.2 (10)	5.1 (5)		
	7.1 (7)	14.3 (14)	29.6 (29)	24.5 (24)	7.1 (7)	14.3 (14)	2.0 (2)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

留学を必修としているので、学生には生活だけでなく学習にも自律した姿勢を求めているが、それが多少アンケートの結果に反映されてきているのかと思われる。

4.今後の方針

選択言語の6言語がよきバランスになりつつあるのでこの状況をさらに進めていきたい。また各言語の留学先も整ってきているので有意義な留学に向けて学生をバックアップしていきたい。

1.概評

今回の報告書では92科目を対象とし、有効回答者数は2163名。総じて肯定的評価は9割を超えており、前年同期（平成28年度後期）比では全項目において肯定率が上昇、満足度がさらに改善したと評価できる。 学科開設から満5年となり、カリキュラム体系およびカリキュラムにおける各科目の位置づけが、教員間の共通認識として定着し、それに応じた科目群間の連携がなされるようになったこと、また、学生の側もそれに応じて積極的に授業参加ができていると思われる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	7.6 (7)	18.5 (17)	20.7 (19)	21.7 (20)	16.3 (15)	9.8 (9)	3.3 (3)	<p>[学生] 1シラバスの閲覧、2講義の取り組み姿勢、3授業外学習、4講義到達目標のすべてにおいて肯定的評価が前年同期を超えた。特に2講義への取り組みにおいて、97%が肯定していることから、学生が積極的に学習に取り組んだこと、あるいはその意識を持っていることがうかがえる。</p>	
	5.4 (5)	10.9 (10)	28.3 (26)	29.3 (27)	22.8 (21)	1.1 (1)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (3)	5.4 (5)	13.0 (12)	21.7 (20)	15.2 (14)	23.9 (22)	8.7 (8)	8.7 (8)		
	7.6 (7)	12.0 (11)	23.9 (22)	16.3 (15)	22.8 (21)	13.0 (12)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	1.1 (1)	0.0 (0)	3.3 (3)	2.2 (2)	7.6 (7)	19.6 (18)	26.1 (24)	19.6 (18)	13.0 (12)	7.6 (7)		
	9.8 (9)	15.2 (14)	21.7 (20)	22.8 (21)	21.7 (20)	6.5 (6)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	1.1 (1)	4.3 (4)	10.9 (10)	15.2 (14)	23.9 (22)	22.8 (21)	13.0 (12)	5.4 (5)	3.3 (3)		
	4.3 (4)	7.6 (7)	16.3 (15)	20.7 (19)	23.9 (22)	22.8 (21)	3.3 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	5.4 (5)	23.9 (22)	19.6 (18)	20.7 (19)	17.4 (16)	9.8 (9)		<p>[授業[内容]] 5シラバス記載内容の実質化、6授業内容の理解についてもすべての項目で肯定率が前年同期を超えている。シラバス記載の通りの授業運営がかなり実現されていると思われるが、これは教員と学生がそれぞれに努力した結果である。</p>
	12.0 (11)	14.1 (13)	23.9 (22)	21.7 (20)	21.7 (20)	5.4 (5)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (3)	3.3 (3)	14.1 (13)	18.5 (17)	17.4 (16)	22.8 (21)	12.0 (11)	8.7 (8)		
	10.9 (10)	13.0 (12)	26.1 (24)	19.6 (18)	14.1 (13)	15.2 (14)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	4.3 (4)	6.5 (6)	10.9 (10)	18.5 (17)	19.6 (18)	20.7 (19)	17.4 (16)	<p>[授業[教え方等]] 7教員の説明、8聞き取りやすさ、9講義の進め方においても前年同期よりも高評価となった。前年度に続き、基礎ゼミや語学、ゼミにおいて、教員間の連携に注力し、シラバスの共同開発、授業連携、情報交換が活発に行われていることが、高評価の持続につながっていると推察される。</p>	
	20.7 (19)	19.6 (18)	23.9 (22)	20.7 (19)	8.7 (8)	6.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (3)	2.2 (2)	3.3 (3)	12.0 (11)	15.2 (14)	21.7 (20)	25.0 (23)	17.4 (16)		
	19.6 (18)	20.7 (19)	26.1 (24)	17.4 (16)	10.9 (10)	5.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	4.3 (4)	5.4 (5)	14.1 (13)	18.5 (17)	19.6 (18)	23.9 (22)	12.0 (11)		
	15.2 (14)	22.8 (21)	26.1 (24)	16.3 (15)	13.0 (12)	6.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	2.2 (2)	10.9 (10)	26.1 (24)	20.7 (19)	21.7 (20)	15.2 (14)		
	21.7 (20)	20.7 (19)	28.3 (26)	18.5 (17)	9.8 (9)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	4.3 (4)	12.0 (11)	32.6 (30)	23.9 (22)	10.9 (10)	6.5 (6)	6.5 (6)		
	10.9 (10)	12.0 (11)	25.0 (23)	32.6 (30)	10.9 (10)	8.7 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科設問は設けていない。

4.今後の方針

- 1) 平成30年度より新カリキュラムを導入し、3つのトラック（集中領域）を強調した履修モデルをカリキュラム上にも反映させる。このため、カリキュラム全体における各トラックの役割、各科目の位置づけがより明確になっているため、シラバス作成や到達目標の設定がしやすくなると思われる。
- 2) 1年基礎ゼミではグループワークのスキルをシラバスに組み込み、上級生によるT A制度も導入。そのための専門研修をT Aと教員に実施予定。
- 3) 履修登録はなるべく学科登録を減らし、シラバスを読みながら自己責任で行うようひきつづき指導。
- 4) 上級生においては卒業要件チェックリストの自己管理を徹底する。

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A + B）の割合の平均が90%以上の高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営の双方に良好であることが確認できた。また昨年と比較して、いずれの設問においても肯定的評価の割合が数ポイントずつ上昇しており、各科目における様々な工夫の効果が見られた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A, B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.7 (2)	28.6 (10)	37.1 (13)	17.1 (6)	8.6 (3)	2.9 (1)	0.0 (0)	<p>[学生] いずれの設問も肯定的評価（A + B）の割合の平均が90%を超え、学生の自己評価は高かった。特に「授業への積極的な取り組み」（設問No.2）に対する肯定的評価の割合の平均は96%となっており、ほとんどの学生が主体的に授業に参加したことがうかがえた。</p>	
	0.0 (0)	5.7 (2)	8.6 (3)	25.7 (9)	48.6 (17)	11.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	14.3 (5)	14.3 (5)	25.7 (9)	17.1 (6)	20.0 (7)	2.9 (1)	5.7 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	5.7 (2)	5.7 (2)	22.9 (8)	28.6 (10)	22.9 (8)	8.6 (3)	5.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (1)	11.4 (4)	20.0 (7)	25.7 (9)	17.1 (6)	11.4 (4)	11.4 (4)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	11.4 (4)	22.9 (8)	22.9 (8)	22.9 (8)	20.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	2.9 (1)	2.9 (1)	14.3 (5)	22.9 (8)	37.1 (13)	8.6 (3)	5.7 (2)	5.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	5.7 (2)	5.7 (2)	20.0 (7)	45.7 (16)	14.3 (5)	5.7 (2)	2.9 (1)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (1)	20.0 (7)	25.7 (9)	37.1 (13)	8.6 (3)	5.7 (2)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] いずれの設問も肯定的評価（A + B）の割合の平均は90%以上で、授業内容に関する評価も良好であった。特に「理解度」（設問No.6）の設問では昨年度より5ポイント以上上昇しており、授業改善の効果が現れている。</p>
	0.0 (0)	5.7 (2)	11.4 (4)	45.7 (16)	20.0 (7)	17.1 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	14.3 (5)	14.3 (5)	20.0 (7)	17.1 (6)	22.9 (8)	11.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	2.9 (1)	14.3 (5)	22.9 (8)	31.4 (11)	17.1 (6)	11.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	2.9 (1)	0.0 (0)	17.1 (6)	14.3 (5)	11.4 (4)	31.4 (11)	14.3 (5)	5.7 (2)	2.9 (1)	<p>[授業[教え方等]] いずれの設問も肯定的評価（A + B）の割合の平均は90%以上で、教え方に関する評価も概ね良好といえよう。特に「説明の明快さ」（設問No.7）と「進め方」（設問No.9）の設問では昨年度より5ポイントほど上昇しており、学生が理解しやすい授業運営へと改善がなされていることがうかがえる。</p>	
	2.9 (1)	8.6 (3)	20.0 (7)	31.4 (11)	25.7 (9)	5.7 (2)	2.9 (1)	2.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (1)	22.9 (8)	17.1 (6)	11.4 (4)	40.0 (14)	2.9 (1)	2.9 (1)		
	2.9 (1)	11.4 (4)	37.1 (13)	14.3 (5)	22.9 (8)	8.6 (3)	2.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	2.9 (1)	0.0 (0)	17.1 (6)	8.6 (3)	28.6 (10)	28.6 (10)	11.4 (4)	2.9 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	5.7 (2)	14.3 (5)	34.3 (12)	28.6 (10)	14.3 (5)	2.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.7 (2)	5.7 (2)	20.0 (7)	37.1 (13)	20.0 (7)	8.6 (3)	2.9 (1)		
	2.9 (1)	8.6 (3)	34.3 (12)	34.3 (12)	20.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (1)	8.6 (3)	37.1 (13)	31.4 (11)	11.4 (4)	8.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	5.7 (2)	2.9 (1)	28.6 (10)	34.3 (12)	22.9 (8)	5.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の専門教育科目を総論・各論講義科目群（20科目）と研究法・実習系科目群（8科目）に分け、各設問の肯定的評価の割合を比較した。研究法・実習系科目群では「授業外学習」（No.3）を積極的に多くしているが、「理解度」（No.6）は講義科目よりやや低い評価となった。また、各論講義科目について常勤教員の科目（11科目）と非常勤教員の科目（7科目）を比較したところ、昨年度と同様に非常勤教員において「理解度」（No.6）の評価が若干低めであった。

4.今後の方針

平成30年度より始まる公認心理師資格対応の新カリキュラムでは、「公認心理師」「認定心理士（心理調査）」「社会調査士」の3資格に対応すべく、研究法・実習系科目の再編成を行い、学生の関心や方向性に応じた履修を可能とした。研究法・実習系科目を得意としない学生が得意分野で力を発揮できるよう、引き続き環境を整えていく。また、常勤教員と非常勤教員との差は昨年と比べ小さくなっているが、引き続きよい連携をこころがけていきたい。

1.概評

本学科のアンケート実施科目89科目（回答者数2,361名）の集計の結果、問1～問4（学生の授業態度等）や、問8（教員の説明）、問11（参考書の整備）の項目において、肯定的な評価の割合が全体平均を上回っている。さらに、学生の授業参加度及び授業外での学習状況は昨年度同様高い評価となっており、学生の主体性の向上がみられる。一方で、受講人数に応じた適切な学習環境の整備は昨年度より低い傾向があり、改善が求められる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	5.6 (5)	5.6 (5)	6.7 (6)	7.9 (7)	22.5 (20)	25.8 (23)	15.7 (14)	10.1 (9)	[学生] 問1～問4の全ての項目において、肯定的評価率は昨年度より高いことが示された。中でも、問1（シラバスの確認）は昨年度より1ポイント高く（96.1%）、問2（積極的な授業参加）（97.7%）及び問3（授業外での学習）（97.6%）は1.7ポイント高い。さらに、問1及び問3は、過去3年間の評価の中でも最も高い割合を示している。プロジェクト型学習や資格関連の実習・演習系科目のみならず講義科目においても学生が意欲的かつ積極的に授業に取り組む姿勢がうかがえる。今後は、このような学生の変化を見据えながら、学習効果の向上に向けて働きかけていく。
	9.0 (8)	23.6 (21)	25.8 (23)	15.7 (14)	12.4 (11)	10.1 (9)	2.2 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	4.5 (4)	9.0 (8)	14.6 (13)	22.5 (20)	21.3 (19)	13.5 (12)	11.2 (10)	[授業[内容]] 問5（シラバスとおりの授業展開）の肯定的評価は97.1%で、問6（授業内容の理解）の肯定的評価は94.6%を示し、昨年度とほぼ同程度の評価であった。適切な授業運営が評価されていることを踏まえ、さらに学科の強みでもある専門職養成に関わるカリキュラムの体系化を図ることや難易度の調整についても継続的に検討していく。
	11.2 (10)	15.7 (14)	20.2 (18)	21.3 (19)	20.2 (18)	6.7 (6)	3.4 (3)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	4.5 (4)	9.0 (8)	11.2 (10)	22.5 (20)	21.3 (19)	11.2 (10)	18.0 (16)	[授業[教え方等]] 問7（説明の明快性）の肯定的評価は95%を示し、昨年度同期より1.1ポイント増である。問8（よく聞き取れたか）の肯定的評価は96.4%で昨年度同期より0.7ポイント増であった。問9（授業の進め方）は、昨年度よりやや低い傾向を示しており、特に新カリキュラムで新たに導入した学科必修科目においてやや課題が見受けられる。今後、学科必修科目においてより効果的な授業の進め方等について、継続的に検討していく。
	19.1 (17)	7.9 (7)	25.8 (23)	22.5 (20)	10.1 (9)	11.2 (10)	2.2 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	3.4 (3)	4.5 (4)	9.0 (8)	16.9 (15)	15.7 (14)	15.7 (14)	21.3 (19)	5.6 (5)	7.9 (7)	[環境・設備等] 問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	4.5 (4)	9.0 (8)	23.6 (21)	13.5 (12)	22.5 (20)	20.2 (18)	4.5 (4)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	5.6 (5)	5.6 (5)	11.2 (10)	21.3 (19)	18.0 (16)	16.9 (15)	18.0 (16)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	21.3 (19)	12.4 (11)	18.0 (16)	28.1 (25)	7.9 (7)	9.0 (8)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.1 (1)	2.2 (2)	4.5 (4)	2.2 (2)	11.2 (10)	13.5 (12)	14.6 (13)	28.1 (25)	7.9 (7)	14.6 (13)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	16.9 (15)	10.1 (9)	27.0 (24)	14.6 (13)	16.9 (15)	12.4 (11)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.1 (1)	6.7 (6)	5.6 (5)	6.7 (6)	11.2 (10)	9.0 (8)	15.7 (14)	24.7 (22)	19.1 (17)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	19.1 (17)	23.6 (21)	19.1 (17)	14.6 (13)	16.9 (15)	4.5 (4)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (4)	1.1 (1)	11.2 (10)	11.2 (10)	11.2 (10)	14.6 (13)	24.7 (22)	21.3 (19)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	21.3 (19)	24.7 (22)	18.0 (16)	15.7 (14)	12.4 (11)	5.6 (5)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.1 (1)	9.0 (8)	3.4 (3)	10.1 (9)	6.7 (6)	13.5 (12)	18.0 (16)	20.2 (18)	18.0 (16)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	18.0 (16)	21.3 (19)	22.5 (20)	16.9 (15)	15.7 (14)	3.4 (3)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	1.1 (1)	10.1 (9)	20.2 (18)	23.6 (21)	20.2 (18)	22.5 (20)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	25.8 (23)	23.6 (21)	30.3 (27)	16.9 (15)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	13.5 (12)	15.7 (14)	21.3 (19)	21.3 (19)	10.1 (9)	15.7 (14)	問10（学習環境）の肯定的評価は95.2%で、問11（参考書の整備）の肯定的評価は94.6%であった。昨年度よりそれぞれ1.6ポイント減であった。人数に応じた適切な教室環境の確保とともに、これまで配架資料の充実を図っていた学科内の資料室の有効活用など、落ち着いた学習環境の整備に向けて努力していく。
	15.7 (14)	13.5 (12)	29.2 (26)	23.6 (21)	10.1 (9)	7.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科は従来の社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の3資格養成に加え、平成29年度からは言語聴覚士を養成するカリキュラム編成を行っている。新カリキュラム体制のもとで、専門職養成という学科の強みを生かした科目配置をしているが、新たに導入した専門科目において、学生の授業に対する理解度においてやや課題が見受けられる。国家資格取得へのモチベーションの維持はもちろん、資格関連の基礎科目及び専門科目の理解を深めるための工夫を図りながら、学科の新体制の基盤をさらに強化していきたいと考える。

また、多くの専門科目は非常勤教員のサポートを要することがあるため、今後、非常勤懇談科会等の定期的な意見交換会の場を設けて、学科教員や担当教員間で専門職養成や学科の学びの体系化に向けて共通認識を図りながらカリキュラムの強化対策を講じていく。

4.今後の方針

1. 学科必修科目の効果的な授業運営及び他の専門科目との連動

各学年に配置されている学科必修科目の到達目標を踏まえ、より効果的な授業運営について継続検討を行う。また、学科必修科目と他の専門科目との連動や体系化について、より分かりやすく可視化していく。

2. 国家試験指定科目の難易度の調整及び専門知識習得の強化

学生の授業の理解度の推移を分析し、専門科目の配置を現在の低学年集中型から高学年までの均等配置へと見直すことも視野に入れながら、国家試験の合格率向上に向けて確実な専門知識の習得ができるよう、授業の難易度を調整していくことが必要となる。それぞれの授業内容の充実化とともに、資格取得の動機づけへの働きかけを同時に行う必要がある。現在、教務ガイダンスと合わせて実施している資格別ガイダンスを通して、専門職を目指す場合の4年間の学びのイメージをより具体的に伝えている。特に、平成29年度から言語聴覚士コースが導入されたことを踏まえ、キャリア教育のあり方についても学科教員間で活発な議論を展開し、学生にも適切な進路指導を行っていく。

3. 常勤、非常勤教員間の連携強化

新たなコースの設置に伴い、新・旧カリキュラムの移行期間であることから、担当教員や科目の変更により学生に不利益が生じないよう、十分なサポートを行っていく。また、学科内公開授業の開催や非常勤懇談科会の場を通して教員間の連携を強化していく。

1.概評

前期開設科目108科目、回答者数3,496人のアンケート結果である。いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が94%以上（94.5%～97.5%）と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営ともに良好であった。昨年度同期と比べ、「学習環境（人数・部屋の広さ）」以外はすべて若干数値は高い結果となった。
 ソーシャル・メディア・グローバルの3つのスタディーズでの学びの体系とともに各科目群等のカリキュラム体系が学生に周知されてきた。スタディーズごとに授業公開を実施し、教員間でディスカッションを行ったり、カリキュラム変更に伴う並行科目や次年度新規開設科目を含めた各授業の関係性や方向性を確認し合っている。常勤教員の担当科目だけでなく、非常勤教員にも依頼し、実施している。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.9 (7)	18.6 (19)	18.6 (19)	20.6 (21)	22.5 (23)	8.8 (9)	2.9 (3)	[学生] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は、シラバスによる事前確認（no.1）が95.1%、授業への積極的取り組み（no.2）が96.6%、授業外での学習（no.3）は96.4%、シラバスの「到達目標」の達成（no.4）は96.3%と、いずれの設問も高い評価を示した。シラバスによる事前確認については、前年度を2.1ポイント上回った。授業への積極的取り組み及び授業外での学習も前年度を0.8ポイント上回る結果となった。授業公開等の取り組みが効果として表れてきているように思う。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるため、学生には、引き続き予習、復習、課題等授業外での積極的な学習を促していきたい。	
	3.9 (4)	9.8 (10)	27.5 (28)	22.5 (23)	22.5 (23)	11.8 (12)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (5)	5.9 (6)	14.7 (15)	21.6 (22)	14.7 (15)	20.6 (21)	13.7 (14)	3.9 (4)		
	2.9 (3)	17.6 (18)	20.6 (21)	20.6 (21)	17.6 (18)	16.7 (17)	2.9 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (5)	6.9 (7)	23.5 (24)	17.6 (18)	18.6 (19)	20.6 (21)	7.8 (8)		
	8.8 (9)	22.5 (23)	22.5 (23)	19.6 (20)	19.6 (20)	5.9 (6)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	0.0 (0)	8.8 (9)	14.7 (15)	22.5 (23)	21.6 (22)	11.8 (12)	18.6 (19)	2.0 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	3.9 (4)	18.6 (19)	10.8 (11)	27.5 (28)	26.5 (27)	9.8 (10)	2.9 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	10.8 (11)	17.6 (18)	20.6 (21)	22.5 (23)	22.5 (23)	3.9 (4)		[授業[内容]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は、「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」（no.5）は97.5%、「授業内容の理解」（no.6）は95.2%であった。昨年度同期に比べ、それぞれ1.5ポイント、0.7ポイント上昇し、高評価といえる。基礎ゼミとして開講している「現代教養入門」は、担当教員間でディスカッションをし、シラバスの内容も充実してきた。卒業論文の成果へつながるように、スタディーズごとに教員間で連携をとっている。今後は、スタディーズの領域を超えた科目間の連携も検討していきたい。
	4.9 (5)	21.6 (22)	26.5 (27)	19.6 (20)	22.5 (23)	3.9 (4)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (3)	2.9 (3)	10.8 (11)	26.5 (27)	18.6 (19)	23.5 (24)	8.8 (9)	5.9 (6)		
	7.8 (8)	9.8 (10)	25.5 (26)	22.5 (23)	25.5 (26)	8.8 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (5)	4.9 (5)	17.6 (18)	16.7 (17)	28.4 (29)	14.7 (15)	12.7 (13)	[授業[教え方等]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は、「教員の説明の明快さ」（no.7）は95.6%、「教員の話が良く聞き取れたか」（no.8）は96.2%で、昨年度同期に比べ、それぞれ0.9ポイント、0.3ポイント増加した。「授業の進め方は内容等を理解するうえで効果的であったか」（no.9）は94.6%で昨年度より1.1ポイント増加した。これら教え方等について詳細をみると、評価に多少ばらつきが見られる。少人数の授業は教員の話は良く聞き取れており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。	
	12.7 (13)	20.6 (21)	31.4 (32)	19.6 (20)	13.7 (14)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	7.8 (8)	14.7 (15)	11.8 (12)	26.5 (27)	19.6 (20)	17.6 (18)		
	19.6 (20)	23.5 (24)	22.5 (23)	23.5 (24)	10.8 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	5.9 (6)	3.9 (4)	23.5 (24)	18.6 (19)	21.6 (22)	13.7 (14)	11.8 (12)		
	14.7 (15)	13.7 (14)	25.5 (26)	28.4 (29)	14.7 (15)	2.9 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (3)	3.9 (4)	22.5 (23)	15.7 (16)	18.6 (19)	22.5 (23)	13.7 (14)		
	14.7 (15)	22.5 (23)	26.5 (27)	25.5 (26)	9.8 (10)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	15.7 (16)	29.4 (30)	19.6 (20)	22.5 (23)	9.8 (10)	1.0 (1)		
	2.0 (2)	16.7 (17)	24.5 (25)	27.5 (28)	24.5 (25)	4.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、参加型の授業を強化するための授業方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも引き続き話し合っていきたい。

4.今後の方針

受講人数の多い少ないや、必修か選択か、講義か演習か等でも授業に対する学生のモチベーションには違いが見られる。参考書の充実度に対する評価の向上は、図書館と連携して参考書の充実に努めた結果である。社会科学系の図書のさらなる充実を図っていきたい。また、授業評価についても一部導入可能な科目についてルーブリック評価の導入を検討していく予定である。

1.概評

すべての項目について、肯定的評価が9割5分以上と非常に高く、前期よりもさらに上昇した。すでに天井うちになっている状況といえる。前期は若干低めであった項目1のシラバスの確認も上昇し、学生に対して授業前にシラバスを確認させる指導が徹底されたと思われる。またシラバスの通りに授業を行うという点も非常に高得点となっており、教員側のシラバスに対する意識もほぼ定着したといえる。各教員に対する評価も大変高く、引き続きこの状況を維持するよう心掛けたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.2 (8)	13.8 (12)	31.0 (27)	23.0 (20)	14.9 (13)	8.0 (7)	0.0 (0)	<p>[学生] 全体的に肯定的評価（とくにA）の割合が高い結果となっている。すべての項目について前期と比較して上昇しており、学生が自主的に学習に取り組む姿勢が定着してきたといえる。また到達目標を達成したと回答した学生の割合も97%と非常に高評価を得た。今後も引き続き学生の自主性を刺激するような授業展開を心掛けたい。</p>
	2.3 (2)	5.7 (5)	19.5 (17)	27.6 (24)	34.5 (30)	8.0 (7)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	6.9 (6)	10.3 (9)	17.2 (15)	24.1 (21)	24.1 (21)	11.5 (10)	4.6 (4)	
	4.6 (4)	14.9 (13)	25.3 (22)	23.0 (20)	23.0 (20)	6.9 (6)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	13.8 (12)	20.7 (18)	21.8 (19)	19.5 (17)	14.9 (13)	8.0 (7)	
	9.2 (8)	14.9 (13)	24.1 (21)	25.3 (22)	21.8 (19)	4.6 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	4.6 (4)	12.6 (11)	19.5 (17)	19.5 (17)	23.0 (20)	13.8 (12)	5.7 (5)	1.1 (1)	
	0.0 (0)	6.9 (6)	16.1 (14)	23.0 (20)	23.0 (20)	21.8 (19)	9.2 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	3.4 (3)	5.7 (5)	19.5 (17)	25.3 (22)	25.3 (22)	16.1 (14)	3.4 (3)	
	3.4 (3)	16.1 (14)	26.4 (23)	34.5 (30)	10.3 (9)	8.0 (7)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.6 (4)	4.6 (4)	8.0 (7)	18.4 (16)	20.7 (18)	25.3 (22)	16.1 (14)	2.3 (2)	
	4.6 (4)	13.8 (12)	27.6 (24)	25.3 (22)	16.1 (14)	11.5 (10)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	6.9 (6)	5.7 (5)	13.8 (12)	18.4 (16)	24.1 (21)	21.8 (19)	8.0 (7)	
	8.0 (7)	23.0 (20)	28.7 (25)	19.5 (17)	16.1 (14)	3.4 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	3.4 (3)	8.0 (7)	11.5 (10)	14.9 (13)	25.3 (22)	26.4 (23)	9.2 (8)	
	9.2 (8)	27.6 (24)	32.2 (28)	14.9 (13)	11.5 (10)	2.3 (2)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	6.9 (6)	9.2 (8)	10.3 (9)	24.1 (21)	21.8 (19)	18.4 (16)	8.0 (7)	
	8.0 (7)	18.4 (16)	28.7 (25)	27.6 (24)	13.8 (12)	2.3 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	13.8 (12)	11.5 (10)	18.4 (16)	32.2 (28)	18.4 (16)	3.4 (3)	
	5.7 (5)	18.4 (16)	37.9 (33)	19.5 (17)	14.9 (13)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.7 (5)	10.3 (9)	21.8 (19)	25.3 (22)	20.7 (18)	14.9 (13)	1.1 (1)	
	3.4 (3)	17.2 (15)	26.4 (23)	26.4 (23)	21.8 (19)	1.1 (1)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

コースによって履修すべき科目がほぼ決まっているため、以前は学科登録が多く学生が自主的に科目を履修するという姿勢が薄かった。ここ最近、ほぼすべての科目を学生が登録するという指導のもと、学生自身がシラバスを確認して、自分に必要な科目を取得するという姿勢が定着してきた。教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意識や意欲は高い。

4.今後の方針

今後もこれまで同様、学生が主体的、積極的にとりくめるような授業展開ができるよう学科全体として取り組んでいきたい。引き続き、授業公開および協議会をひらき、授業の質的改善を図る機会を設けていく予定である。

1.概評

概ね例年通りの傾向ではあるものの、すべての項目で前年度の結果を上回ることができ、少なからずPDCAサイクルが好転しているのではと期待している。今後も小さな改善を積み重ね、現況評価の維持、そして更なる向上に努めたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (2)	7.4 (10)	17.0 (23)	32.6 (44)	20.0 (27)	16.3 (22)	5.2 (7)	<p>[学生] A+Bの評価率(%)は、H29後期/H28後期において設問1(96.8/95.2)、設問2(97.2/96.4)、設問3(97.1/96.5)、設問4(94.9/94.7)と各設問ともに微増となった。 これより学期初めのガイダンスや、授業内・外での学習指導が、学生への授業の目的、内容の周知に対して比較的うまく機能していると考えられ、特に設問1「シラバスで授業内容を確認しましたか」に対する回答は1.6%の増となっており、授業内容がシラバスに正確に反映されているという理解が広がった可能性があると考え、今後ともシラバス内容の精度向上に努めたい。</p>	
	6.7 (9)	16.3 (22)	26.7 (36)	31.1 (42)	14.1 (19)	3.7 (5)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (2)	5.2 (7)	9.6 (13)	20.0 (27)	20.0 (27)	19.3 (26)	17.0 (23)	7.4 (10)		
	8.1 (11)	18.5 (25)	17.8 (24)	28.9 (39)	13.3 (18)	11.1 (15)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	2.2 (3)	5.9 (8)	13.3 (18)	21.5 (29)	26.7 (36)	20.0 (27)	9.6 (13)		
	12.6 (17)	18.5 (25)	29.6 (40)	24.4 (33)	8.1 (11)	5.2 (7)	0.0 (0)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	0.7 (1)	4.4 (6)	11.1 (15)	15.6 (21)	28.9 (39)	17.8 (24)	15.6 (21)	3.7 (5)	2.2 (3)		
	2.2 (3)	3.7 (5)	18.5 (25)	26.7 (36)	24.4 (33)	18.5 (25)	5.2 (7)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.7 (1)	0.0 (0)	0.7 (1)	1.5 (2)	9.6 (13)	17.8 (24)	24.4 (33)	18.5 (25)	18.5 (25)	8.1 (11)		<p>[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は、H29後期/H28後期において設問5(96.7/96.6)、設問6(93.6/93.3)とほぼ横這いという結果となった。 今後ともなお一層の授業内容の明確化、伝達方法を工夫していきたい。</p>
	7.4 (10)	20.0 (27)	21.5 (29)	28.9 (39)	13.3 (18)	7.4 (10)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)		
6	0.7 (1)	0.7 (1)	3.0 (4)	6.7 (9)	12.6 (17)	17.0 (23)	20.7 (28)	22.2 (30)	11.1 (15)	5.2 (7)		
	6.7 (9)	15.6 (21)	25.9 (35)	21.5 (29)	17.0 (23)	11.1 (15)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.7 (1)	0.7 (1)	2.2 (3)	7.4 (10)	8.1 (11)	17.0 (23)	20.0 (27)	22.2 (30)	10.4 (14)	11.1 (15)	<p>[授業[教え方等]] A+Bの評価率(%)は、H29後期/H28後期において設問7(94.7/93.2)、設問8(95.3/94.5)、設問9(93.2/92.8)と各設問ともに微増となった。 このうち設問7「教員の説明は明快であったか」という項目に関しては、1.5%の増となっており、個々の教員の努力が継続的な結果の向上に寄与していると考えられる。</p>	
	9.6 (13)	14.1 (19)	25.9 (35)	24.4 (33)	16.3 (22)	7.4 (10)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.7 (1)	0.0 (0)	3.7 (5)	5.2 (7)	7.4 (10)	14.1 (19)	17.8 (24)	23.0 (31)	14.8 (20)	13.3 (18)		
	14.8 (20)	15.6 (21)	27.4 (37)	20.0 (27)	11.9 (16)	7.4 (10)	3.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.7 (1)	0.7 (1)	3.7 (5)	7.4 (10)	6.7 (9)	17.8 (24)	18.5 (25)	24.4 (33)	9.6 (13)	10.4 (14)		
	12.6 (17)	11.1 (15)	31.1 (42)	22.2 (30)	14.1 (19)	6.7 (9)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (3)	1.5 (2)	7.4 (10)	14.8 (20)	23.0 (31)	23.7 (32)	14.1 (19)	13.3 (18)		
	16.3 (22)	16.3 (22)	25.9 (35)	21.5 (29)	15.6 (21)	3.7 (5)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.7 (1)	0.0 (0)	3.7 (5)	7.4 (10)	14.1 (19)	31.9 (43)	21.5 (29)	12.6 (17)	5.2 (7)	3.0 (4)		
	5.2 (7)	10.4 (14)	20.7 (28)	31.9 (43)	18.5 (25)	8.9 (12)	3.0 (4)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

例年通りの傾向ではあるが、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっている本学科では、理数系科目を極端に苦手とする生徒が存在しており、そうした理数系科目を教える授業においては、総じて評価が低い傾向となっている。この為の対応策として、新たな非常勤講師の獲得等により、授業内容の改善を試みてはいるものの、今年度に関しても期待するほどの成果は出ていない。しかしこうした教員の中には、今年度からの新規教員も含まれていることから、成果の現れを急ぐのではなく、継続的な成果の推移を見守りつつ、適宜必要な改善を行う事で、学生の理解向上に努めたい。

4.今後の方針

H31年度に向けて学科カリキュラムの大幅な改変を計画している。このカリキュラム改変では、目まぐるしく変わる社会の状況に柔軟に対応できる学生の輩出を核として、本学科だからこそできる多彩な学びの場の創出に工夫している。こうした改変が、学生たちの更なる向上心を刺激し、満足度の高い授業運営ができるよう心掛けていきたい。

1.概評

前期と比較すると全体的に平均点は上昇傾向にあった。後期カリキュラムは低学年においても基礎的な実験実習が導入されていることから、積極的な授業参加はもちろんのこと、シラバスの確認や、課題やレポート作成を通して授業外学習についても積極的に取り組んでいる傾向にあった。学習習慣が定着していくように今後も効果的な授業展開が必要と考える。高学年においては、国家試験対策や臨地実習などを通して、将来を見据えて自分自身の考えをまとめる機会が多く、積極的な授業への参加ができたものと考えられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察	
1	0.0 (0)	6.1 (4)	10.6 (7)	37.9 (25)	28.8 (19)	6.1 (4)	7.6 (5)	1.5 (1)	1.5 (1)	0.0 (0)	<p>[学生] 履修登録の際に事前に必ずシラバスを確認することを指導している。そのことから昨年度から比較すると多くの学生が授業前に確認しているようである。管理栄養士国家試験受験のための科目も多いことから、授業への参加は比較的積極的であることが見受けられた。授業外学習においても、大方の学生がレポート、課題等を通して行っており、学生間でのディスカッションも盛んに行われているようである。</p>	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	7.6 (5)	18.2 (12)	48.5 (32)	18.2 (12)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	4.5 (3)	4.5 (3)	19.7 (13)	36.4 (24)	16.7 (11)	13.6 (9)	3.0 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	1.5 (1)	4.5 (3)	15.2 (10)	18.2 (12)	37.9 (25)	15.2 (10)	4.5 (3)	3.0 (2)	0.0 (0)		
3	1.5 (1)	4.5 (3)	6.1 (4)	25.8 (17)	16.7 (11)	25.8 (17)	10.6 (7)	7.6 (5)	1.5 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	10.6 (7)	10.6 (7)	34.8 (23)	24.2 (16)	13.6 (9)	4.5 (3)	1.5 (1)	0.0 (0)		
4	4.5 (3)	4.5 (3)	31.8 (21)	34.8 (23)	12.1 (8)	7.6 (5)	3.0 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	3.0 (2)	9.1 (6)	28.8 (19)	34.8 (23)	16.7 (11)	4.5 (3)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	3.0 (2)	3.0 (2)	15.2 (10)	25.8 (17)	31.8 (21)	13.6 (9)	7.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] 授業内容に関してはシラバス通りの授業展開が行われ、学生達の満足度も高いようである。授業の理解度は高いと思われ、到達目標を達成できた学生が多いようである。しかし、科目によっては苦手意識が強いものもあり理解度にばらつきが見られた。特に基礎科目に対しては、管理栄養士の実践科目に繋がる土台となることから、各授業に対する予習と復習の時間を確保し、理解を深めるように指導していきたい。</p>
	0.0 (0)	0.0 (0)	7.6 (5)	18.2 (12)	28.8 (19)	25.8 (17)	16.7 (11)	1.5 (1)	1.5 (1)	0.0 (0)		
6	1.5 (1)	4.5 (3)	7.6 (5)	22.7 (15)	30.3 (20)	22.7 (15)	6.1 (4)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (4)	7.6 (5)	28.8 (19)	36.4 (24)	18.2 (12)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	6.1 (4)	7.6 (5)	7.6 (5)	15.2 (10)	21.2 (14)	24.2 (16)	13.6 (9)	3.0 (2)	1.5 (1)	<p>[授業[教え方等]] 授業の説明や進め方は例年通り比較的高い評価であった。視聴覚設備を十分に利用することで、わかりやすい説明や、実験・実習など具体的な方法、事例等による効果的な授業展開ができていたものと考えられる。しかし、一部の科目において、進め方などに満足していない学生もいるようであることから、知識を植え付けるための一方向になりがちな授業展開から、学生の理解度が上がるような取り組み(小テストやリアクションペーパー)などを取り入れる工夫も必要と感じた。</p>	
	0.0 (0)	4.5 (3)	15.2 (10)	28.8 (19)	22.7 (15)	15.2 (10)	12.1 (8)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	7.6 (5)	13.6 (9)	12.1 (8)	22.7 (15)	25.8 (17)	15.2 (10)	1.5 (1)	1.5 (1)		
	0.0 (0)	3.0 (2)	18.2 (12)	30.3 (20)	21.2 (14)	16.7 (11)	9.1 (6)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	1.5 (1)	6.1 (4)	6.1 (4)	9.1 (6)	21.2 (14)	22.7 (15)	18.2 (12)	12.1 (8)	3.0 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	4.5 (3)	13.6 (9)	24.2 (16)	22.7 (15)	21.2 (14)	10.6 (7)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (3)	13.6 (9)	24.2 (16)	30.3 (20)	19.7 (13)	7.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)		<p>[環境・設備等] 教室に対する不満(狭さやスクリーンの位置など)は、多くの意見が寄せられている。2号館の外観や出入り口等の整備は進んでいるが、教室、実験・実習室の狭さや設備の老朽化の問題は十分解決したとは言えない状況である。学生達が安全に、かつ積極的に授業参加をするためには、より良い環境整備が重要と考え、引き続き、2号館改修の要望を申請していきたい。</p>
	0.0 (0)	1.5 (1)	13.6 (9)	18.2 (12)	39.4 (26)	19.7 (13)	6.1 (4)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	1.5 (1)	9.1 (6)	36.4 (24)	24.2 (16)	19.7 (13)	4.5 (3)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	1.5 (1)	1.5 (1)	7.6 (5)	31.8 (21)	42.4 (28)	10.6 (7)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

管理栄養学科のカリキュラム上、基礎科目から応用科目へと展開していくため、まず、低学年時の基礎科目（生物・化学）の基礎固めが重要である。入学時にそれぞれのプレースメントを実施し学力を確認しているが、例年「化学」の成績が好ましくない。また、学生の中には、それら科目の苦手意識が改善されないまま、実験や応用科目を履修している者もいるため、今後においても、基礎力向上の組みを強化していく必要がある。グローバルな視点をもった管理栄養士の養成のために取り入れている科学英語は、語学力向上のみならず、世界中の公衆衛生の諸問題に対してグループディスカッションおよびプレゼンテーションを行っているため、学生の積極的な授業参加ができていく科目であることから、今後も充実させていきたい。また、春のアメリカ栄養士研修に参加する学生も一定数おり、アメリカと日本との栄養事情の違いなどをグローバルな視野からも学び、学生自信の今後の進路にも大きく影響しているようである。

4.今後の方針

管理栄養士に必要な知識の修得、実践の場で必要な応用力を身につけるため、基礎から応用へと段階的にカリキュラムを策定している。新カリキュラムとなり2年が経過した。低学年においては基礎力の向上、高学年においては、臨地実習や国家試験対策と応用力の向上が求められる。さらには学科内外のプロジェクト活動への参加も推奨し、自信の発信力向上も目指していきたいと考える。

1.概評

全体としては例年と同様の傾向がみられた。すなわち、学生の授業への意欲は高く熱心であるが、授業への理解度は大学全体と比べて若干低い。ただし、理解度が低いのは、主に低学年で履修する基礎的な科目（特に講義科目）が多く、「実験・実習などの演習科目」や上級学年で履修する「健康デザイン領域科目」では総じて評価が高い。上級学年で履修する科目の理解をさらに深めるためにも、学生の学習意欲が向上するような施策を引き続き検討したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (2)	11.5 (6)	34.6 (18)	11.5 (6)	23.1 (12)	5.8 (3)	5.8 (3)	3.8 (2)	<p>[学生] 今年度も昨年度と同様、「シラバスでの授業内容の確認」「授業への積極的な取り組み」「授業外での学習」「到達目標の達成」、いずれにおいても学内平均よりも高く、健康デザイン学科の学生は、能動的に授業に取り組んでいたことが示された。栄養士や健康運動指導士といった資格取得という明確な目標がある学習に対して一定の達成感が得られたものと考えられる。一方で、実験や演習科目と比べて講義科目での評価が低く、講義科目でも学生が能動的に取り組めるとような施策を検討していく必要がある。</p>
	3.8 (2)	3.8 (2)	9.6 (5)	19.2 (10)	19.2 (10)	30.8 (16)	11.5 (6)	1.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.9 (1)	7.7 (4)	11.5 (6)	21.2 (11)	19.2 (10)	15.4 (8)	13.5 (7)	7.7 (4)	1.9 (1)	
	1.9 (1)	9.6 (5)	13.5 (7)	11.5 (6)	26.9 (14)	17.3 (9)	15.4 (8)	3.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (2)	13.5 (7)	13.5 (7)	23.1 (12)	13.5 (7)	13.5 (7)	13.5 (7)	5.8 (3)	
	5.8 (3)	13.5 (7)	13.5 (7)	19.2 (10)	19.2 (10)	15.4 (8)	9.6 (5)	3.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.9 (1)	3.8 (2)	9.6 (5)	21.2 (11)	17.3 (9)	19.2 (10)	17.3 (9)	5.8 (3)	1.9 (1)	1.9 (1)	
	1.9 (1)	3.8 (2)	3.8 (2)	17.3 (9)	19.2 (10)	21.2 (11)	25.0 (13)	5.8 (3)	1.9 (1)	0.0 (0)	
5	1.9 (1)	0.0 (0)	1.9 (1)	13.5 (7)	19.2 (10)	21.2 (11)	17.3 (9)	11.5 (6)	5.8 (3)	7.7 (4)	
	7.7 (4)	3.8 (2)	13.5 (7)	21.2 (11)	17.3 (9)	19.2 (10)	15.4 (8)	0.0 (0)	1.9 (1)	0.0 (0)	
6	3.8 (2)	3.8 (2)	7.7 (4)	13.5 (7)	21.2 (11)	15.4 (8)	9.6 (5)	15.4 (8)	5.8 (3)	3.8 (2)	
	3.8 (2)	9.6 (5)	13.5 (7)	9.6 (5)	17.3 (9)	25.0 (13)	17.3 (9)	3.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	3.8 (2)	3.8 (2)	7.7 (4)	13.5 (7)	11.5 (6)	7.7 (4)	19.2 (10)	9.6 (5)	15.4 (8)	7.7 (4)	
	5.8 (3)	17.3 (9)	13.5 (7)	15.4 (8)	13.5 (7)	25.0 (13)	7.7 (4)	1.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	3.8 (2)	1.9 (1)	5.8 (3)	13.5 (7)	15.4 (8)	9.6 (5)	21.2 (11)	5.8 (3)	15.4 (8)	7.7 (4)	
	7.7 (4)	17.3 (9)	3.8 (2)	23.1 (12)	21.2 (11)	19.2 (10)	7.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	3.8 (2)	0.0 (0)	11.5 (6)	15.4 (8)	7.7 (4)	17.3 (9)	13.5 (7)	11.5 (6)	13.5 (7)	5.8 (3)	
	3.8 (2)	17.3 (9)	11.5 (6)	11.5 (6)	26.9 (14)	15.4 (8)	13.5 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (1)	9.6 (5)	21.2 (11)	9.6 (5)	28.8 (15)	7.7 (4)	13.5 (7)	7.7 (4)	
	9.6 (5)	11.5 (6)	13.5 (7)	19.2 (10)	23.1 (12)	19.2 (10)	3.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (2)	26.9 (14)	15.4 (8)	19.2 (10)	15.4 (8)	15.4 (8)	3.8 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	11.5 (6)	7.7 (4)	17.3 (9)	23.1 (12)	17.3 (9)	19.2 (10)	3.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

健康デザイン学科は、高校時代に「化学」を履修していない学生が多い。そのため、低学年で開講されている「化学」や「化学の知識を必要とする基礎的な科目」について、学生の理解度や到達度が低い。一方で、主に高学年で開講されている「健康デザイン領域科目」をはじめとする専門性の高い科目については、学生の理解度や到達度が高い。「学年が進むに従い、基礎的な知識の理解が進んだので安心である」考えられる一方で、「低学年での基礎的な知識の理解が深まれば、専門性の高い科目の理解がさらに深まる」とも考えられる。

4.今後の方針

学科で開設している科目の特性を踏まえた上で、学生の授業への能動的・積極的な参加と、到達目標の達成度の向上を図るような取り組みが必要である。具体的には、①基礎科目（特に講義科目）への学生の取り組み、到達度を把握していく、②それに基づく指導法の改善について科会にて議論・情報共有をする、③健康デザイン領域科目のさらなる充実と、それに必要な機器備品の整備、④カリキュラムツリーを利用した、カリキュラムの再検討、を予定している。

1.概評

前期と比較して、全体的に評価が上がっているように思われた。しかしながら、科目によって評価の偏りが大きく見られた。これは、科目の内容が学生には難しかったのか、教授方法に問題があるのか、判断しかねる部分である。新学科ということで、学生の力が未知数であり、教員も本学科の授業は初めてということで、両者の整合性が取れていないことが原因かもしれない。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察	
1	0.0 (0)	16.7 (2)	16.7 (2)	25.0 (3)	16.7 (2)	16.7 (2)	0.0 (0)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	<p>[学生] シラバスでの授業内容の確認は科目によって低いものがあった。学生が自主的に確認するには限界があるので、最初の授業において、再度確認が必要と思われる。教室内では、積極的に取り組んでいるようだ。授業外でも学習に取り組んでいた。また、一部の科目を除いては到達目標を達成したようだ。</p>	
	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	8.3 (1)	8.3 (1)	50.0 (6)	0.0 (0)	25.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	0.0 (0)	50.0 (6)	16.7 (2)	16.7 (2)	0.0 (0)	8.3 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	8.3 (1)	8.3 (1)	8.3 (1)	33.3 (4)	33.3 (4)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	0.0 (0)	8.3 (1)	25.0 (3)	25.0 (3)	33.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (4)	33.3 (4)	8.3 (1)	16.7 (2)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	33.3 (4)	25.0 (3)	8.3 (1)	25.0 (3)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	16.7 (2)	41.7 (5)	16.7 (2)	16.7 (2)	8.3 (1)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	25.0 (3)	8.3 (1)	8.3 (1)	16.7 (2)	41.7 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] 大部分の授業がシラバス通りに行われたと回答された。授業内容の理解では、全ての学生が理解できたという科目がある一方で、半数近くが理解できていない。と回答された科目もあり、科目間に差が生まれていた。これは、科目の内容(教員がもともとめているもの)と学生の実力(高校までに学んできたこと)がミスマッチだったことによると考えられた。担当教員に教授方法の再検討をお願いしたい。</p>
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	41.7 (5)	16.7 (2)	33.3 (4)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	8.3 (1)	25.0 (3)	8.3 (1)	25.0 (3)	16.7 (2)	0.0 (0)	8.3 (1)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	16.7 (2)	16.7 (2)	8.3 (1)	41.7 (5)	16.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	33.3 (4)	8.3 (1)	8.3 (1)	8.3 (1)	8.3 (1)	33.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	25.0 (3)	41.7 (5)	16.7 (2)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	33.3 (4)	8.3 (1)	8.3 (1)	0.0 (0)	8.3 (1)	25.0 (3)	16.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	16.7 (2)	16.7 (2)	41.7 (5)	16.7 (2)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	25.0 (3)	16.7 (2)	8.3 (1)	16.7 (2)	16.7 (2)	16.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	25.0 (3)	50.0 (6)	8.3 (1)	16.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	16.7 (2)	33.3 (4)	41.7 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	8.3 (1)	41.7 (5)	41.7 (5)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.0 (0)	25.0 (3)	0.0 (0)	41.7 (5)	25.0 (3)	0.0 (0)	8.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (1)	8.3 (1)	41.7 (5)	25.0 (3)	16.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

特に行っていない。

4.今後の方針

学科全体としての授業評価は良いようである。特に設備については、ほとんど問題が無かった。すべての科目を適切な教室に当たるよう、努力する。授業の内容、教え方に差が見られたことから、このFDアンケートの結果を真摯に受けとめ、各教員がより良い授業を行えるように、研究、研鑽をしていくように促していきたい。